

2016年3月19日
東京都立小児総合医療センター
文責 感染対策チーム

この度、各メディアで報道されている当院のノロウイルス感染症に関して、ご心配をおかけして誠に申し訳ございません。多くのお問い合わせを頂いており、ノロウイルス感染症についてのQ & Aを作成しました。感染対策を強化し、安全な医療を提供できるよう病院として取り組んでいきたいと考えています。今後もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ノロウイルス感染症のQ & A

Q1. ノロウイルスとはどのような感染症を起こしますか？

ノロウイルス感染症は、12-3月くらいに流行し、胃腸炎をおこします。感染をおこしてから症状がでるまでの期間は12時間から48時間ほどです。気持ち悪くなったり、吐いたり、お腹をくだすことが多く、熱がでることもあります。症状には個人差があります。通常、1日から5日くらいで回復します。抵抗力が落ちている場合は、より長く続くことがあります。

Q2. ノロウイルスはどのような経路で感染しますか？

ノロウイルスに感染した人が吐いたものや便の中には、たくさんのウイルスがいます。それらに触れた手で、口のなかにウイルスが体の中に入ることによって感染します。こどもではおむつの便から感染することがあります。また吐いたものや便の細かい粒子が空気中に舞い上がり、吸い込むことによって感染することもあります。そのほかには、ノロウイルスに汚染された食べもの（カキ等の二枚貝が多い）でも感染します。

Q3. ノロウイルス感染症はどれくらい感染しやすいですか？

ノロウイルスは感染しやすく、非常に少ないウイルスの量でも感染します。

Q4. ノロウイルス感染症はどのように診断しますか？

症状、流行している状況と診察した所見で診断することが多いです。ノロウイルスを診断する便の迅速検査もありますが、検査できる人が保険で制限されています。また検査の感度も良くないため、診断では補助的に使われます。

Q5.ノロウイルスの治療方法を教えてください。

ノロウイルスに効く抗ウイルス薬はありません。脱水に注意して、必要な水分を補給することが大事です。水やお茶では塩分が足りなくなるので、塩分の入ったスポーツ飲料水などが良いです。市販されている経口補水液でも構いません。

Q6.ノロウイルス感染症で死亡してしまうことはありますか。

日本では、飲みこむことが上手にできない年配の方が吐いた後に、呼吸を詰まらせたり、肺炎をおこして亡くなることが多いです。抵抗力の落ちた方でも死亡の報告があります。健康な人では、自然に治ることがほとんどです。

Q7.ノロウイルス感染症の予防はどのようにすればよいですか？

ノロウイルスの感染症予防のワクチンはありません。

家庭では、ウイルスがいると思われる吐いたもの、便などは、きれいに片づけ、触れた後は、石鹼と水道水でよく手を洗うことです。特にトイレのあと、食事の前、こどものおむつの片づけのあとに行うことが重要です。ノロウイルスはアルコール消毒が効きにくいので、よく石鹼と水道水で洗い流します。

食物はよく加熱すること（85℃で1分以上）でノロウイルスが死滅します。

Q8.小児病院においてノロウイルス感染症の蔓延はなぜ起きてしまうのですか？

ノロウイルスは非常に感染力の強く、吐いたものや便の中のウイルスが口から入ると、ごく少量でも感染します。小児病院ではトイレが自律している大人と異なり、おむつの使用者が多いため、おむつを取り扱った手を介しての感染のリスクが高いからです。

Q9.再発防止には何をすればよいと考えていますか？

当院は、感染対策として、院内の講習や対策が守られているかの確認を定期的に行っています。ノロウイルスの感染対策としては、医療職員のケアのときの手洗い、おむつなどの処理方法、環境消毒の実施、感染した患者さんについては隔離を、再度、適切に行うように徹底しています。また面会者で吐いたり、下痢をしたり、熱や発疹がある場合には、受付で申し出いただき、面会をご遠慮頂いていますが、この予防策をより徹底していただく様、ご協力をお願い致します。これ以上、感染が広がらないように対策を強化していきたいと考えています。